

ユーカナバ ベテリナリーダイエット

ケースレポート

アシスト 残渣ケア

[犬用] 編



お腹の健康が気になる犬に

特長

オリジナル繊維質ブレンド[フラクトオリゴ糖(FOS)・マンナンオリゴ糖(MOS)・ビートパルプ]を使用

●プレバイオティクスで善玉菌の増殖をサポート、腸内環境を維持

フラクトオリゴ糖(FOS)やマンナンオリゴ糖(MOS)のようなプレバイオティクスは、大腸の中で善玉菌の増殖と活動を活性化することにより犬にプラスの影響を与えます。

●ビートパルプの役割

ビートパルプは適度な発酵性の食物繊維で、腸内細菌による発酵作用により短鎖脂肪酸が生成されます。短鎖脂肪酸は腸細胞が好んで使うエネルギー源で、正常な蠕動運動、大腸の血流の維持、電解質と体液のバランス維持、健康な便の形状の維持などの機能を持ち、腸の健康維持をサポートします。

●マンナンオリゴ糖

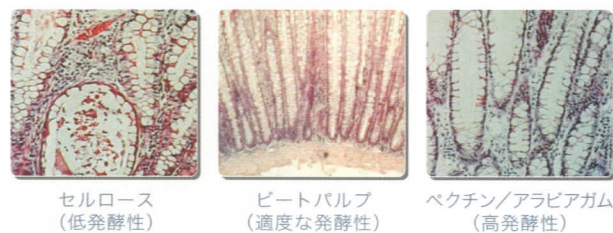
食物繊維であるマンナンオリゴ糖(MOS)を配合し、腸内環境の維持に配慮します。



代謝エネルギー(ME):
346kcal/100g
65g/カップ(200cc)
内容量:
800g, 3kg, 5kg, 12kg
・粒サイズ・色には多少のばらつきがあります。



発酵性繊維質の腸への影響¹



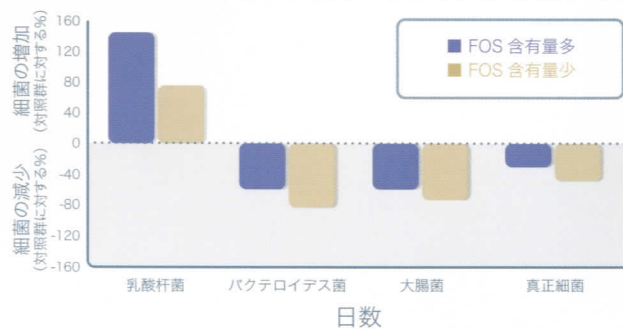
セルロース (低発酵性)

ビートパルプ (適度な発酵性)

ベータグルカン/アラビアガム (高発酵性)

フラクトオリゴ糖の研究(犬)²

フラクトオリゴ糖により、善玉菌が増加し、腸内環境の維持が確認できた



脂質の調整

低脂肪設計により、脂肪便を最小限に抑えます。脂肪が減ることによって膵臓の負担を軽減し、膵外分泌不全などの胃腸障害により低下した消化機能をサポートします。

オメガ-6脂肪酸とオメガ-3脂肪酸を適切な比率に調整

多くの胃腸疾患で認められる腸粘膜の炎症は、下痢や嘔吐の悪化をもたらす危険性があります。オメガ-6脂肪酸とオメガ-3脂肪酸の比率を5:1に調整することで、低炎症性メディエーターに対する高炎症性メディエーターの相対的な産生量を低下させるため、胃腸疾患のある犬に適しています³⁻⁵。

マイクロクレンジングクリスタル配合

粒を噛むことで、新たな歯垢・歯石の蓄積を抑えます。

マイクロクレンジングクリスタル配合のフードを

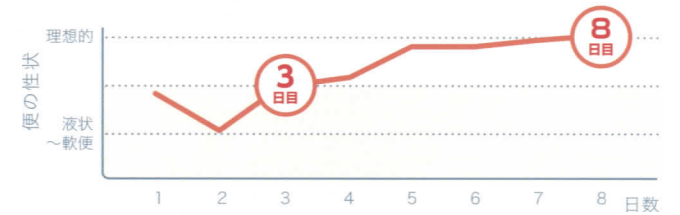


28日間食べた場合

そうでない場合

犬における研究

急性下痢症において、
1アシスト残渣ケア(犬用)による食事療法により
3日以内に便の硬さに違いが見られ始め、
8日以内に健康な硬さが確認された⁶



保証分析値

たんぱく質	22.0%以上
脂質	9.0%以上
粗繊維	4.0%以下
灰分	8.2%以下
水分	10.0%以下
オメガ-6脂肪酸	1.35%以上
オメガ-3脂肪酸	0.27%以上

デンタルケア

EVDのトータルケア

お腹の健康

免疫力の維持をサポート



この療法食の適応

- 急性/慢性胃腸炎
- 小腸性/大腸性下痢
- 大腸炎
- 炎症性腸疾患(IBD)
- 便秘
- 膵外分泌不全
- 吸収不良/消化不良
- 膵炎
- 抗生剤反応性下痢(ARD)
- 短腸症候群
- 疾患治療中・治療後の療法食による栄養管理
- 腸の手術後
- 胃拡張・胃捻転症候群(GDV)
- パルボウイルス感染症
- 重度の寄生虫症
- 癌

推奨できない病態等

- 成長期
- 妊娠期
- 授乳期

原材料名

粗びきトウモロコシ、家禽類(チキン、ターキー、他)、トウモロコシ粉、発酵用米、乾燥卵、乾燥ビートパルプ、鶏エキス、動物性油脂、フラクトオリゴ糖、発酵用乾燥酵母、亜麻仁、フィッシュオイル、マンナンオリゴ糖、ビタミン類(E、C、A、パントテン酸カルシウム、ピオチン、B1、B12、ナイアシン、B2、イノシトール、B6、D3、葉酸、塩化コリン)、ミネラル類(硫酸第一鉄、酸化亜鉛、硫酸マンガン、塩化カリウム、ヘキサメタリン酸ナトリウム、炭酸カルシウム、食塩、硫酸銅、酸化マンガン、ヨウ化カリウム、炭酸コバルト)、DL-メチオニン、酸化防止剤(エトキシキン、ローズマリー抽出物)

REFERENCES:

1. Reinhart GA, Moxley RA, Clemens ET. Source of dietary fiber and its effects on colonic microstructure, function and histopathology of beagle dogs. J Nutr 1994 124:2701S-2703S.
2. P&G Pet Care Study 2009, Data on file.
3. Vaughn DM, et al. Vet Derm. 1994; 5:163.
4. Reinhart GA, Vaughn DM, Proceedings 13th ACVIM Forum 1995.
5. Reinhart GA. In Recent Advances in Canine and Feline Nutrition. Vol 1:1996; Iams Nutritional Symposium Proceedings. Orange Fraser Press, Wilmington Ohio 1996, P235-242.
6. Based on a 2002 study of dogs with stress related diarrhea. Data on file, P&G Pet Care (US product).

他製品紹介



1アシスト 残渣ケア [犬用] 缶 内容量:396g

繊維質ブレンド[フラクトオリゴ糖(FOS)・マンナンオリゴ糖(MOS)とビートパルプ]で、お腹の健康が気になる犬の為の食事管理を栄養学的にサポートします。

原材料名●鶏肉・白身魚、発酵用米、粗びきトウモロコシ、鶏レバー、牛副産物、鶏副産物、魚粉(フィッシュオイル源)、乾燥卵、乾燥ビートパルプ(糖質除去)、フィッシュオイル、フルクトオリゴ糖、マンナンオリゴ糖、食塩、ビタミン類(E、C、B1、パントテン酸カルシウム、ピオチン、B12、ナイアシン、B2、イノシトール、B6、D3、葉酸、塩化コリン)、DL-メチオニン、ミネラル類(塩化カリウム、炭酸カルシウム、リン酸-ナトリウム、硫酸第一鉄、酸化亜鉛、硫酸マンガン、硫酸銅、酸化マンガン、ヨウ化カリウム、炭酸コバルト、リン酸-水素カルシウム)
※缶製品はアイムスベテリナリーフォーミュラブランドです。



1アシスト 残渣ケア [猫用] 内容量:400g, 1.5kg, 3kg

繊維質ブレンド[フラクトオリゴ糖(FOS)・マンナンオリゴ糖(MOS)とビートパルプ]で、お腹の健康が気になる猫の為の食事管理を栄養学的にサポートします。

原材料名●家禽類(チキン、ターキー、他)、トウモロコシ粉、粗びきトウモロコシ、動物性油脂、乾燥卵、乾燥ビートパルプ、乾燥卵、鶏エキス、発酵用乾燥酵母、フラクトオリゴ糖、フィッシュオイル、マンナンオリゴ糖、DL-メチオニン、ビタミン類(E、B12、A、ナイアシン、C、ピオチン、パントテン酸カルシウム、B1、B6、D3、B2、イノシトール、葉酸、塩化コリン)、ミネラル類(塩化カリウム、炭酸カルシウム、食塩、酸化亜鉛、硫酸マンガン、硫酸銅、ヨウ化カリウム、炭酸コバルト)、酸化防止剤(ローズマリー抽出物)

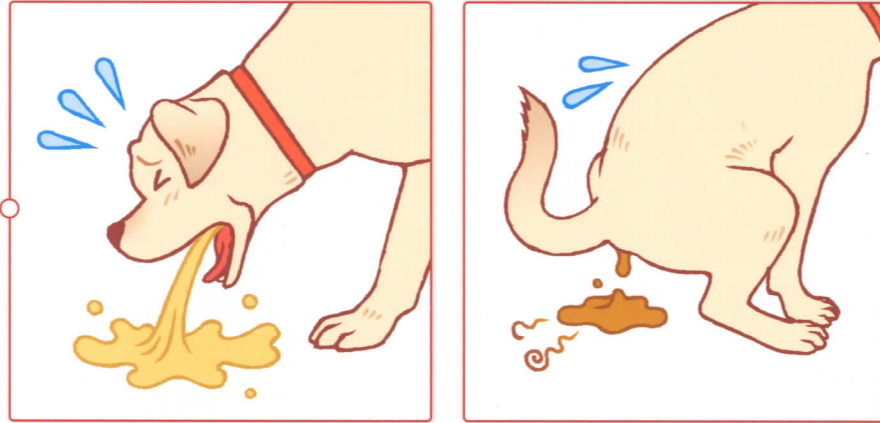


1アシスト 残渣ケア [猫用] 缶 内容量:170g

繊維質ブレンド[フラクトオリゴ糖(FOS)・マンナンオリゴ糖(MOS)とビートパルプ]で、お腹の健康が気になる猫の為の食事管理を栄養学的にサポートします。

原材料名●水分、鶏肉、鶏レバー、牛副産物、発酵用米、白身魚、粗びきトウモロコシ、魚粉(フィッシュオイル源)、乾燥卵、乾燥ビートパルプ(糖質除去)、フラクトオリゴ糖、発酵用乾燥酵母、マンナンオリゴ糖、DL-メチオニン、タウリン、ビタミン類(E、B12、A、ナイアシン、B1、パントテン酸カルシウム、ピオチン、B6、B12、B2、葉酸、メナジオン重亜硫酸ジメチルジピリミジノール、塩化コリン)、ミネラル類(塩化カリウム、炭酸カルシウム、リン酸-ナトリウム、酸化亜鉛、硫酸マンガン、硫酸銅、ヨウ化カリウム)
※缶製品はアイムスベテリナリーフォーミュラブランドです。

主 訴 嘔吐、軟便



Patient

犬種	ダルメシアン
性別	避妊雌
年齢	11歳
体重	16.0kg

初診時所見・既往歴

以前より嘔吐、軟便が頻繁に確認され、他社消化器疾患対応療法食を数種類使用し、その都度内服治療で症状が安定していた。血液検査、検便等の検査では異常がなく、炎症性腸疾患（IBD）を疑う症例であった。

2011年6月頃からひどい嘔吐と腹痛、軟便と食欲不振が確認された。

検査結果

血液検査（CBC、生化学）：異常なし
犬特異的リパーゼ検査、T4：異常なし
糞便検査：（-）
内視鏡検査・病理検査：リンパ球形質細胞性胃腸炎

診断名

リンパ球形質細胞性胃腸炎

治療

（確定診断前）ファモチジン、スクラルファート投与
（確定診断後）アモキシシリン、メトロニダゾール、プレドニゾロン、ファモチジンの内服

コンビネーション

Iアシスト残渣ケア使用開始

結果とフォローアップ

症状に応じて、内服を漸減し休薬に至った。
現在は、治療開始後約1年経過中でIアシスト残渣ケアを継続している。

考察と担当医からのコメント

最終的に投薬等なしでもコントロールできた症例であり、オーナーの負担がなくよかったと考えている。消化器疾患に対応した療法食の中でも、組成や原材料によって適・不適は個体差があるので、症例の状態を見ながら選択するよう心がけている。

主 訴 下痢を繰り返している



Patient

犬種	ダルメシアン
性別	避妊雌
年齢	14歳
体重	14.3kg

初診時所見・既往歴

水様性下痢、稀に血が混ざる
嘔吐は無し

検査結果

レントゲン検査：小腸内ガス貯留以外特筆事項なし
糞便検査：異常なし

考察と担当医からのコメント

本症例はこれまで症状が軽度な場合でもすぐに受診していただいていたが、低脂肪食の選択により比較的良好に維持ができ、通院の頻度を大きく減らすことができた。オーナーの満足度も高かった。

治療

タンニン酸ヘルペリン等の内服
状況に応じて皮下補液、
アモキシシリン、メトロニダゾールの内服

コンビネーション
Iアシスト残渣ケアに
変更

結果とフォローアップ

軟便は現在も時折あるが、通院の頻度は大きく減らすことができた。
投薬だけでは高頻度で下痢を繰り返すため、他社療法食を含む食事管理を実施したが、オーナーからはIアシストでの便の状態が良好とのことで、現在までの4年半の間、Iアシストを継続している。

主 訴 頻回の下痢



Patient

犬種	バグ
性別	雌
年齢	12歳
体重	9.5kg

初診時所見・既往歴

1日3回程度の下痢で著しい体重減少
腹囲膨満

検査結果

一般血液検査：HbおよびHtの低下、WBCの上昇
血液生化学検査：Alb、Caの低下、ALPとALTの上昇

考察と担当医からのコメント

ステロイド剤の休薬後も症状が安定しているのは、フードを変更したこともその一助になっているのではないかと考えている。

治療

酪酸菌製剤、乳酸菌製剤、
メトロニダゾール、
ステロイド剤の投与

コンビネーション
Iアシスト残渣ケア
使用開始

結果とフォローアップ

現在はメトロニダゾールとステロイドを休薬。
排便回数は1日1-2回となり、便の状態もオーナーが我慢できる程度まで改善した。
その他、皮膚の状態も安定している。

ケース 4

膵炎と診断された症例

主 訴 下痢、血便、食欲なし

Patient

犬種	チワワ
性別	避妊雌
年齢	6歳
体重	4.2kg



初診時所見・既往歴
頻回な下痢、血便、嘔吐
食欲もなく、元気もない

検査結果
一般血液検査：WBC 増加
血液生化学検査：Glu 上昇、TBil、AST、BUN の軽度上昇
犬膵特異的リパーゼ検査：673 (400 未満で膵炎の可能性高い)
レントゲン検査：腸壁肥厚、ガス貯留

治療
アンピシリン、エンロフロキサシン、
ブチルスコプラミン、プロトファンール、
プレドニゾロンの投薬、点滴、
入院治療 (2weeks)
食事療法開始後、下痢止め、サプリメント、
抗生物質の内服で治療終了

コンビネーション
初期治療後、
Iアシスト残渣ケア
使用開始

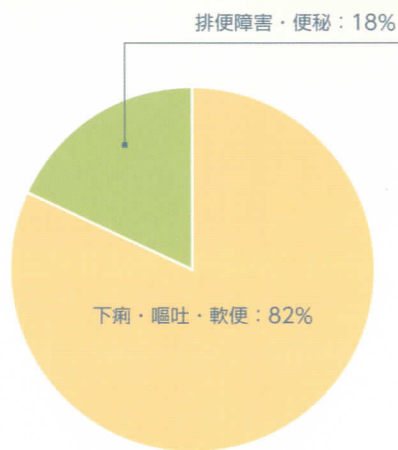
結果とフォローアップ
Iアシスト残渣ケアで食事療法を継続中であるが、状態は落ち着いている。

考察と担当医からのコメント
ひどい下痢、嘔吐が続いていたので、結果にはオーナーも喜んでいる。人の食べ物をたくさん食べていたようなので、残渣ケアのみ与えるよう指導している。

こんな症状に Iアシスト 残渣ケア [犬用] 編

◆ 使用用途の割合

Iアシスト残渣ケアは、嘔吐や下痢の症状だけではなく、便秘や排便障害を抱える犬の食事管理にも最適です。



* 74 症例より選出

◆ 使用後の状況について

ご使用いただいた多くの症例で、症状の軽減や投薬の減量などが報告されました。

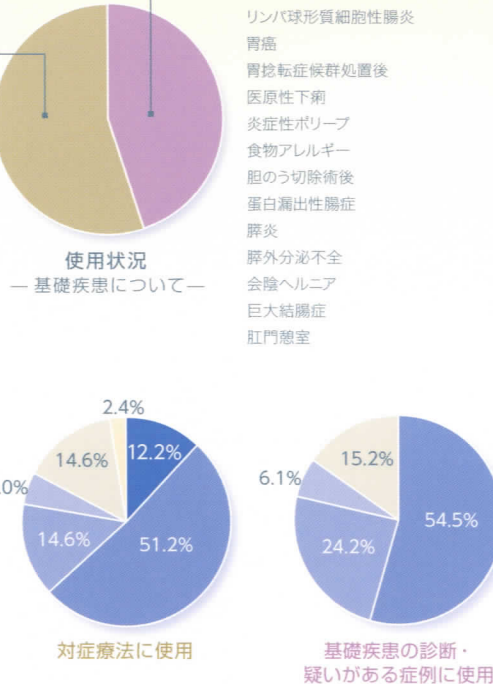
対症療法に使用：41 症例

- ストレス性胃腸障害
- 過食による下痢
- 空腹による嘔吐
- 腸炎・反復する消化不良による下痢
- 慢性下痢
- 老化
- 便秘
- 未特定/記載なし

基礎疾患の診断・疑いがある症例に使用：33 症例

- リンパ球形質細胞性腸炎
- 胃癌
- 胃捻転症候群処置後
- 医原性下痢
- 炎症性ポリープ
- 食物アレルギー
- 胆のう切除術後
- 蛋白漏出性腸症
- 膵炎
- 膵外分泌不全
- 会陰ヘルニア
- 巨大結腸症
- 肛門憩室

- 効果あり/改善
- 症状消失/軽減
- 投薬なし/投薬減量
- 悪化なし/治療頻度低減
- 記載なし
- 変化なし/悪化



ケース 5

軟便を伴った排便回数増多の症例

主 訴 1日5回以上も排便し、軟便



Patient

犬種	チワワ
性別	雄
年齢	2歳
体重	2.9kg

初診時所見・既往歴
元気食欲あり、視診、触診異常なし
潜在糞あり

検査結果
糞便採取できず、検便不可能

考察と担当医からのコメント
これまでの経験から排便回数の多い症例に、自信をもって Iアシストを勧めている。サンプルの使用で変化が見られる場合には、オーナーにも受け入れやすい。

治療
投薬治療なし

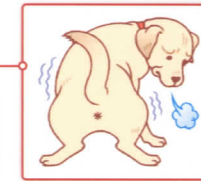
コンビネーション
Iアシスト残渣ケア使用開始

結果とフォローアップ
排便以外には異常が認められなかったため、Iアシスト残渣ケアを勧めた。
Iアシストのサンプルを給餌したところ排便回数が1日1回となり、経過良好である。

ケース 6

前立腺肥大と会陰ヘルニアの症例

主 訴 排便時の力み、便が出にくい



Patient

犬種	ミニチュア・ダックスフント
性別	雄
年齢	9歳
体重	5.8kg

初診時所見・既往歴
数年にわたり会陰ヘルニアを放置していた模様
排便時に会陰の突出あり

検査結果
血液検査：異常なし
糞便検査：異常なし

考察と担当医からのコメント
棒状の程よい硬さの便を出させることは、会陰ヘルニアを予防するには必要であると考えている。このケースは既にヘルニアを起こしていたが、排便時に力ませないようにすることで症状を悪化させることなく維持できている。

治療
オーナー希望により去勢手術のみ
会陰部にバンテージ固定

コンビネーション
Iアシスト残渣ケア
使用開始

結果とフォローアップ
現在、排便困難はなくなり、会陰の突出も減っている。
食事療法として Iアシストを継続中。

ケース 7

下痢を繰り返す胃腸炎の症例

主 訴 嘔吐と食欲不振
便の状態が不安定



Patient

犬種	ヨークシャー・テリア
性別	雄
年齢	8歳
体重	2.5kg

初診時所見・既往歴
軽度脱水
腸蠕動運動やや亢進

検査結果
血液検査：軽度脱水所見
血液生化学検査：(-)

考察と担当医からのコメント
一時、他社製品に切り替えた時期があったが、オーナーからあまり調子が良くないと申し出があった。Iアシストに戻してからは落ち着いているとのこと。下痢を繰り返す犬には Iアシストは使いやすいフードの 1 つだと考えている。

治療
皮下補液
ラニチジン、メトクロプラミド、整腸剤、
抗生物質の投与

コンビネーション
Iアシスト残渣ケア
使用開始

結果とフォローアップ
嘔吐はなくなり、便通も改善された。オーナーの希望により現在も Iアシストを継続している。基本的に状態は良く、年に 1~2 度下痢で来院するが、適宜治療しその後数日で安定している。